

母と子の情景

「ママ　みてて」

矢崎　淳子

ゆうべの雨が上り、きょうは晴れた公園。

所々に広がる水たまり。なま乾わきのすべり台。なま乾わきのブランコ。ブランコの下にも、小さな池。砂場は、ほど良く湿って、お団子を作るのに、もってこいです。

ショーちゃんの声が、叫びます。

「ママー！みてて。」

いまから、すべり台するからね。」

ママは、うなずきます。

しばらくすると、またショーちゃんが叫びました。

「ママ。みてて。ボク、すべり台、じょうずでしょ。」

ママは、うなずきます。

「そうね。」

シヨーちゃんの声が叫びます。

「ママ。みてて。ブランコするからね。」

たちのりするからね。」

ママは、うなずきます。

すぐに、シヨーちゃんの声。

「ママ、いまみてた？たちのり、じょうずでしょ。」

ママは、うなずきます。

「そうね。ほんとに。」

シヨーちゃんは、公園をつつきり、今度は

砂場へ、行きました。

「ママ、みてて、おすなばであそぶから。」

ママは、うなずいて、後から、ゆっくりとついてきます。

「ママ、みて、ほら、おだんご。」

ママは、ふんふんと、うなずきながら、砂場の横に、しゃがんで、隣のおばさんと、

話を始めました。

「どうして、子供って、こう、みてて、みててって、見てて欲しがるのかしらねエ」

「全くね。ウチの子も、そうだったわア」

シヨーちゃんが、叫びます。

「ママ、いまみてなかったでしょう。」

おしゃべりばかりしちゃダメ。」

隣のおばさんが言いました。

「シヨーちゃんは、ママみててが大好きね。どうして、ママが、よそを見ちゃいけないの。」

「どうしても」

シヨーちゃんは、そう言って、さらに、沢山のお団子を、作り始めました。一個、作っては、ママをちらっと、見上げ、「ほら。」

と、呼びます。しばらくして、シヨーちゃん は、ママを見て、びっくりしました。

「ママ！」

「はい、はい、見てますよ。」

「そうじゃないの。うしろ、うしろ、うしろ見て！」

ママは、振り返りました。と、すぐ目の前に大きな水たまりが、広がっています。もう一歩、いえ、半歩、後ろに下がったら、しゃがんだママのおしりと足は、ぼちゃんと、水たまりに入ってしまう所です。

「ああ、助かった」

おきやくさまやめた

おきやくさまになったらね

いいこにしていてちょうだいね

おいしいおかしがでてきて

ママは、慌てて、立上ると、言いました。

知らない間に、後ずさりをして、水たまりまで、来ていたようです。

帰り道、ショーちゃんは、満足そうに、こう言いました。

「ほらね、ママ。ボクが、ママを、見ていなかったら、今ごろは、ママは、びしょ濡れになっていたでしょう。」

とたんに、おててはださないで

どうぞ、めしあがってっていわれたら

ぼろぼろこぼさず、たべてよね

もっとっておもっても

なんかほかにないのなんていわないで

どんなおうちか、みたくなって

たんけんしたくなってね

あちこち、あけたりしないでね

きんぎょや、えがきとあるから

それを、じいっと、みててよね

おしっこしたくなったらね

ママが つれていってあげるから

もどってきたら、ひとまわり

おへやのなかをぐるりみて

すぐまた、おしっこなんて、はやすぎる

ママもうかえろうとか

すぐにいたりしないでね

ママのおはなし、おわるまで

どう？ よしクン。おきやくさま
できるかな。

できるヨ、できる っていったけど

ママのおはなし、ながすぎる

いつになったら、おわるかな

はやく、おはなしおわらないと

また、おしっこ いきたいよう

つまらないから、もうかえろう

ねえママ、ママったら

おきやくさま、やめて、もうかえろう